

アフリカの中国人パワー……アンゴラ到着印象

6月10日夕刻5時に成田空港を発ち、新バンコク空港、ヨハネスブルクを乗り継いで、現地時間11日正午アンゴラ、ルアンダ空港に到着した。正直、時差の関係で二日足らずで地球の裏側に近いアフリカ東海岸に位置するアンゴラに着いた計算であるが、随分速く到着したなという感じがした。

アンゴラの到着の強烈な第一印象は、アンゴラその国ではなくて中国人のプレゼンスだった。ヨハネブルクから一時間ばかり空港内で乗り継ぎの待ち合わせをし、南アフリカ航空エアバスA300で、北上すること4時間弱でアフリカの新地アンゴラ、ルアンダ空港に到着した。

多分300人乗りのこの航空機の半数は中国人であつたらう。60歳近い身としては、他人の事をとやかく言う資格はないが中国の乗客には若い男女から中年に至るまさに老若男女が入り混じっていた。ルアンダ空港に到着すると敵もさる者でチャンと仲間がお出迎えて、飛行機を降りて入管をすませると待ち構えていた彼等の知人友人が引き取る仕組みのようであつた。私たちが入管を済ませ、出迎えのわが上司JTEC(Japan Telecommunication Engineering Consulting service)ルアンダ事務所長のHさんの車に乗った頃は中国人の姿はなかったのである。Hさん率いる全身黒光りのする現地スタッフの車2台に分乗し、私たちは午後3時過ぎ空港近くのオフィス兼住宅に着いた。アンゴラの人たちには失礼だが彼等の印象はかつて日本で流行した「ダッコちゃん」人形そのものといった印象を受けた。

その夜、Hさんからアンゴラの今日の現状説明を受け、ルアンダ到着時の強烈な中国人パワーの驚嘆の原因を知ったのである。

『中国人が何故多いかって？当然だね。石油生産資本を元にアンゴラは現在インフラストラクチャーの整備を進めている。中国は石油引取りを条件にこの国に莫大な投資をしている。道路整備、高速道路建設、鉄道建設、上下水道整備、電気通信建設とね。これらの殆どは中国の資本である。だから、これら道路工事、鉄道建設、水道工事、通信建設に労働者まで送り込んでいる。従って毎回到着する航空機に中国人の多いのは当然である』と。

私はその説明を聞いて納得した。その後現地スタッフ、現地在住日本人等からの情報で少しずつ中国パワーの実情が解ってきた。

即ち中国は、それぞれのインフラストラクチャーの整備を請け負ったばかりではなく、その工事の労働者も送り込んでいるのである。現在のアンゴラ駐在の中国人は30万人を裕に越しているそうで、現在でも毎回到着する飛行機で切れ目なく乗り込んでおり、50万人を突破するのは時間の問題であろうとアンゴラでは言われている。

事実その後、歩いて行動できないルアンダ市内を車で眺めた範囲では、ルアンダ市内は、インフラのコンストラクション真っ只中であつた。日本に例えるなら、東京オリンピック前の光景が想像された。ルアンダ市内切れ目なく建設工事が行われているのである。従って晴れていても街はどんよりとし曇っている。道路工事、水道工事などの土ぼこりが絶えることなく空中に舞っているからである。ここは工場から吐き出される廃棄ガスではない。要所々の工事現場にはなるほど中国人の労働者が見かけられるのも又事実である。

現在のところ首都ルアンダの風景しか目に入らないけれど、在住の日本人の話を知ると地方とて規模は違うけれど少なからず、インフラストラクチャー工事が行われているのは確かなようで、ある人たちの話では話題の四川省地震救済テントを持ち込んだようなテント村がアンゴラの地方、至るところに見かけられるということである。これはインフラストラクチャーの工事に従事する、中国人労働者のテント村である。

アンゴラに駐在している中国人は30万人を超えていることは上述したが、因みにアンゴラ在住の日本人は如何かと、日本大使館へ照会してみたら30人前後との回答が返ってきた。

多勢に無勢という言葉があるが、JTECオフィスで夕食会の雑談の中で『日本人らしさ』出して行こうということが話題になり、わが社の3番目の地方現地事務所開設責任者のYさんから『事務所に日章旗とアンゴラの国旗を掲揚する』と言う意見が出され私はいち早く賛成し仲間のみなさんも賛成した。アンゴラの人たちにはどうしても中国人と同じに見える日本人の差別化を図ろうという作戦である。Yさんは日本国旗、アンゴラ国旗はすでに調達済みであり近々実現されるだろう。

私が歩いたきたタイ、カンボジア、トンガでもそうであったように、ここアンゴラでも中国人のパワーは理屈抜きに素晴らしいと感じている。華僑魂は歴史が証明しているように実績がある。

それを勘案して、日本人はどうあるべきかを考えさせられるところである。どうあるべきかという行動スタンスがきちっとして居れば、そんなに難しい問題ではないように私には感じた。その証明にはチョット時間はかかるだろうけれど。。

(2008.07.01 ルアンダ JTEC オフィスで)

